

## 皆様に支えられながら 岩手県社協走り続けます!!



皆様からいただいた善意による寄付金、協賛金を活用し、  
福祉を担う人づくり、福祉サービス提供の基盤や仕組みづくり、  
福祉によるまちづくりの取組を強化していきます!!

### 寄付金は貴重な自主財源

本会の事業執行財源は、岩手県からの補助金収入と委託金収入が全体の約8割を占め、残り約2割が会費収入や企業・団体、個人の皆様からの寄付金収入等の自主財源となっています。

補助金収入や委託金収入は、該当する事業に対する資金であるため、使途は決められています。自主財源は、使途が制限されていません。皆様からいただいた寄付金収入は、特に指定されない限り本会の活動に広く充てさせていただきます。地域共生社会の実現に向けた取組を進めています。

### 寄付いただいた企業・ 団体、個人の方に感謝

日本は他国に比べ、寄付文化が定着していないと言われています。共同募金会への寄付額も長期的に減少傾向にあります。寄付文化が定着しない要因としては、寄付先への信用度が低い、日本人の根深い自己責任論(自分のしたこと起きた結果は、すべて自分の責任)とする考えが影響しているとも言われています。

### 約60年間にわたる 寄付への思い

一方、クラウドファンディングやオンライン上での寄付、電子マネーなど、現金に限らない多様な寄付の方法も取り入れられるようになっており、寄付のあり方や背景に変化が出てきています。

東日本大震災津波の際には、本会にも多くの寄付金が寄せられ、被災者や被災地への支援に活用させていただきました。現在でも、本会の取組内容にご理解をいただき、企業・団体、個人の皆様から寄付金や協賛金をいただいています。皆様のご理解とご支援に改めて感謝いたします。

矢巾町在住の名郷根 法育(なごねのりいく)さんは、個人として、昭和38年から約60年もの間、継続して本会に寄付をしてくださっています。毎回、本会事務所に寄付金を渡しに来所され、社会情勢や地域での出来事など、時折、冗談も交えながら、我々県社協職員を諭すようにお話をしてくださいます。

今回は、名郷根さんから、寄付を始めたきっかけや寄付を継続する思いなどをお聞きしました。

### 寄付を始めた経緯を 教えてください

就職した頃、父親から「何にもできないんだから、福祉のために寄付をしたらいい。」と言われたことがきっかけで始めました。

当時の月給は、6,700円でした。そこから毎月300円を県社協に寄付しました。10年続け、給料が10,000円程に上がったことから、20年目からは月500円、30年目からは月1,000円、その後、月2,000円と増やしていき、現在は1回3,000円の額を寄付しています。

「いつか何かの役に立てばいい」、損するという気持ちは持たず、皆々



聞き手：県社協 特命参事 宇土沢 学

### どのような世の中になっ てほしいと願っていますか

自殺者が多いこのご時世。せっかく親からもらった大切な命を自ら断つというニュースを見るのは胸が痛みます。

「自分さえ良ければいい」と思っているのではなく、皆がより良くなればいいと思う気持ちが大切だと思います。企業や団体、個人の方も、引きこもりやまともに食事を摂れない人たち



名郷根 法育さん

### 寄付先である 本会には何を 期待しますか

子どもの貧困や引きこもりの問題への対応を期待しています。

私もできる範囲で協力する気持ちです。そして、自分が知っていること、やってきたこと、思いというのを後世にも伝えていきたいです。82歳ですが、まだまだやるべきことがたくさんあります。

現在、名郷根さんは農業を行う傍ら、農業協同組合の活動や地域の子ども達に対する農業体験の実施等、少しでも誰かの役に立てたらという思いで活動をしています。

本会では今後も、名郷根さんをはじめ、寄付金、協賛金をいただいている全ての皆様の思いをしっかりと受け止め、関係機関や民間の企業・団体等の皆様との連携・協働など、

等への支援に気持ちを傾け、この課題に向き合っていくてほしいです。

あらゆる主体とのネットワークを強化しながら、住民が抱える地域課題、生活課題の解決に向けて、取組を進めてまいりますので、引き続き、ご理解とご協力をお願いします。

